

令和6年度沼田まつり検討委員会（第3回）概要

- 日 時：令和6年7月8日（月）午後7時18分～午後7時55分
- 場 所：テラス沼田7階 沼田商工会議所会議室
- 出席者：星野市長（名誉会長）、井熊会頭（会長）、山田観光協会長（副会長）、青地区長会長（副会長）、須田副会頭（副会長）、今井副会頭（副会長、委員長）、塩浦副会頭（副会長）、山宮経済建設常任委員長（副会長）、山口経済部長（副委員長）、小菅専務理事（副委員長）

□検討事項

（1）意見交換会の意見について

〔決定事項〕

- 新しい課題として、気象への対応策も協議し、総合的に持続可能な沼田まつりを考えていくこととした。また、人口現象も考慮し、コンパクト化も検討することとし、少なくとも2,3年は経過を見て検証することとした。
- 検討委員会にて検討してきた経過説明を実行委員会で報告することとした。

〔主な意見〕

- 熱中症の問題が重要だと思う。最終的に沼田まつりを存続していくならば時期を変えて開催するのが良いと思う。日程が狂うため最初は大変だと思うし、祭りが二分化してしまうという主張もあるが、そんなことを言っている場合ではないと思う。気候や人口減少、色々考えるとそんなこと言っていないでもっと根本的に考えていかないとこの検討委員会が無駄になるのではないか。
- 異常気象が世界的に現れているというのがニュース等で報道されているなか、本当に8月でいいのかということを考えなければならない。今後10年で約6,000人市民が減っていくわけでもある。お祭りが存続できるかどうかという考えになってしまう。熱中症の観点でいうと子どもの関係があるが、本当に暑くなってきたらお祭りに子どもは出でこない。暑いと親が子どもを出さない。どこの段階にお祭りを持っていくのがいいか、そこまで考える必要があると思う。昔はお祭りの時、会社が休みになり祭りに送り出してくれていたが、その雰囲気もなくなった。そうするとやはり、時期やお祭りのやり方を総合的に考えていく必要があると思う。今後どのようにやるのがよいか、長期的に考えたほうが良いと思う。
- 祭りは3,4,5日と言っている人がいることは間違いない。ポスターデザインにしても「須賀神社のお祭りなのに天狗みこしがあんなに出でおかしい」と言っている人が本当にいる。こんな状態ならやらない方がいいと言っている人たちも結構いるのである。熱中症対策を行うことが一番重要で、月日を変えていかないとまつりがなくなってしまうという段階がもうすぐそこまで来ている。一番大事なことは熱中症だということを周知し、月日を変えていくという方が良いと感じている。もう、3,4,5日にこだわっている時代じゃなくなっているんじゃないかなと、本当に痛感した。
- 検討委員会レベルで話をしないで、議会でちゃんと話して政治力を使ってどうするかをちゃんと示さないとだと思う。ここで議論しているレベルではないと思う。市の祭りとしてやるんだということと、やるのならそういうところまで踏み込まないと決まっていけない問題だと思う。

- この前の意見交換会の参加者で言い切れず帰られた団体の方が多くいた。会議が終わった後に、こういう会議だったら次に意見を求められれば会の総意をまとめてくると言っていた方が結構いた。
- 沼田まつりの分裂開催ということはできない。それは避けなきゃならないと思ひ、どこか妥協点を探るために粘り強くやっていかななくてはならないと感じていた。
- 昔は8月の後、涼しい風が降りていたが、今は違う。昔のようにお祭りを実施できる気候でなくなってきているというのも事実。視点を変え、協議・検討しないと会議を開いてもまた同じ話になってしまうと思う。
- 参加する子供に何かあってから考えるのではなく、そうなる前に考えなければならぬと思う。この会議を何のためにやっているのかを考えないとならない。そうでないと無駄な会議になってしまう。
- 検討する方向性をどうしていくかということになると、参加者減少と開催の時期だと思う。また、気象についても今後も無視できないと思う。検討結果としてどう提案するかというのは、方向性を示すということしかないと思う。
- 週末の問題に関しては令和8年に月火水になると思うが、そこでどのように参加者の人数が変わるか、それを実証してみようか決めるのはどうか。
- 祭りを二分するのではなく、やはり検証してみよう結果を出していかないとだと思ふ。あとはお祭りに出た人だけではなく、市民全体の意見も聞かなければだと思ふ。
- 本当に平日開催でどうなのか、見に来る人が本当に来ないのかを検証すべきだと思う。その結果をもとに、日付等を定めるべきである。しっかり検証してから決めないと、いろいろ反発が起こると思う。
- 今回実施する熱中症指針によって、これじゃ祭りならないということになれば、やはり開催時期を変えなければならぬと思う。金土日に関しては平日になった時にどうなるのかということを実証してみようから変える場合は変えるのがよいと思ふ。
- 令和8年の実施までで検証してみるのがよいと思ふ。時間はかかってしまうがそれくらいかかると色々検証できないと思ふ。
- 日付については何回も議論して、徐々に議論が進めばいいんじゃないかと思ふ。急な方向転換はできないと思ふ。
- まず、一番重要なのは沼田まつりをどこに持って行くかということ。それに合わせて他行事も振り分けていけばいいのかなと思ふ。
- 神社みこしの担ぎ手が少なくなってきているのも事実であるため、須賀社の方たちが納得いくところの現実に合わせていくということだと思ふ。
- 時期を変えるのであれば週末にやるしかないと思ふ。その辺に関しては運動会の時期なども調べなければならぬし、沼田まつりをこの日付に持って行くので、運動会の日付をずらしてくださいといったような要請もしていかなければならぬと思ふ。その辺は時間をかけてやっていかないと、1,2年では無理だと思ふ。
- 時間や担ぎ手の問題もそうだが、運行自体の全体の流れもコンパクトにしていかないと無理が出てくると思ふ。交通規制区域関連で現在は東原新町と西原新町にある規制区域が交互に変わっていると思うが、担ぎ手や引き手の人数が減ったことで今まで上まで行っていた団体で行けなくなってしまったところもあると思ふ。そのため、まつりの会場をコンパクトにしていこうということも同時に議論していかないとならない。
- 現状維持派の方は伝統を守り、一連の神事を崩したくない。もう片方では気温が高いし、

とてもじゃないけど、今のままでは維持できないということを主張している。それぞれの主張していることはそれぞれ正しいと思う。だが、どこかで結論を出さなくてはいけない。